



氷のルートを満喫

南アルプス 尾勝谷塩沢左俣・右俣 アイスクライミング

小暮

【日時】 2010年12月25日(土)～28日(火)

【メンバー】 L小暮、笹川

アプローチ

尾勝谷へのアプローチは、戸台の駐車場の手前の林道入口からとなる。Webで事前に調べていたとおり、ゲートのチェーンは施錠されておらず簡単に外すことが出来た。林道を入れるところまで車を進入させ、巨大な堰堤の手前まで入る。

巨大堰堤を越えるには、堰堤左岸側に設置された階段状の梯子を登るか、右岸側の巻き道を使うことになる。我々は、行きでは左岸側の梯子を登ったが、登攀用具と4日分の食糧を含めた荷物が大きいためにバランスを崩しそうでもありとても大変だった。帰りは左岸の巻き道を使ったが、こちらの方が明らかに楽なのでこちらを使った方が良い。

崩れた林道を約30分程歩くと塩沢出合だ。出合いには、電力関係の小屋と設備もあり間違いない。狩猟関係者がつけたものなのか赤テープが付けられているので、テープに従って沢を進む。今日は寒気が入り小雪が舞う天気。このところ暖かい日が続いたせいか積雪は少なくラッセルは全く無いが、代わりに沢の水量が多く渡渉に苦勞する。足元が滑るのでストック必携である。

なるべく赤テープを探して樹林帯の斜面を進むが、どうしても渡渉するポイントが次々と出てきてその都度ひやひやしながら進む。倒木とうっすらと雪の載ったゴーロ歩きが非常に疲れる。寒気が入っている筈だが、思ったよりも寒くなく、もし氷結していなくて登れずに敗退したらと心配になる。予想よりはるかにかかり、5時間30分程度かかってようやく二俣へ。右俣側に入った台地にベースキャンプを設営した。二俣付近は伏流となっているので、水場探しへ。二俣の右俣側の窪地に水が溜まっており、流れていないが、近くには他に見当たらないのでこれで妥協した。

塩沢左俣

翌日は、左俣へ向かう。朝3時30分起床、5時50分出発。まだ暗いので、ヘッドランプの明かりを頼りに沢沿いではなく、右岸に渡って尾根状を進む。沢床よりはるかに高い位置であるが、かえってこちらの方が歩きやすい。しばらく進むとルンゼが入っているので、ここから沢に下りる。沢床はゴーロ状となり歩きづらい。氷床となってきたので、アイゼンを履くと、倒木の掛かったF1が見えた。F1は氷結が甘く氷が少ない。両側の岩が露出しているので、バイルもあまり叩けない。右から掛かる倒木にバイルを刺して巻き気味に越えた。

更に沢を進むと、正面には立派な氷瀑が見える。50mの大きさのF2である。細かいモコモコが重なっているが、しっかり凍ってくれているのでよかった。IV+で階段状なので、それほど厳しくない。スクリー6本を使用。

F2のすぐ上には6mの氷瀑。短いのでフリーで越える。この滝はカウントしないようだ。少し進むと、2段になっているF3が見える。ナメ状10mの段がありその上に、立った氷瀑が見えている。下段はフリーで登って、その上からロープを出す。上段は約30m。IV程度であり丁度よい難易度だ。

滝上で右から支沢が入っている。登っているときには、F2の上の6mをF3とカウントし、下段ナメをF4、上段をF5とカウントしていたので、間違っ右沢に入ってしまった。沢床が低いのは左なのでこちらが本流だったろう。



塩沢左俣 F2

右沢は滝が連瀑になって何段も繋がって上に抜けているが、最初の5mの小滝を越えると、その上の15m滝はツララ状で下まで繋がっていない。この状態では、あと1週間程度では繋がらそうもない。間違いであろうと、そのまま左沢の方に樹林帯を使って巻き下りる。懸垂なしで左の沢に戻ることが出来たが、二俣上の12m滝の上に出してしまった。

荒れ気味のゴースを進んだ先には、横倒しになった倒木から垂直に落ちる5mの滝となっている。非常に硬くて立っているが、短いので問題はない。その先で沢は開けており二俣になっている。これがトポの二俣らしい。左は滝が二つかかっており一つ目でも15mはあり立派だ。本流と思しき右沢は、小滝となっている。この先は幾つか易しい滝を登っていく。正面は25m程度の傾斜の緩い滝が掛かっている。登っているときは、果たしてトポの何番目の滝なのか良く分からなくなってしまった。易しい滝ばかりで、この辺りでもういいだろうと、ここからベースキャンプに戻ることにした。後から考えると、F7のところを終了としたのだろうと思われる。

下降は、ほとんどの滝は懸垂になるが、灌木や倒木に直接ロープを掛けて支点とすることが出来る。特に問題なくF2まで下降しロープをしまふ。F1は右岸から巻いてそのまま急な樹林帯をトラバースしていくと見覚えのある登りで使ったルンゼ状である。あとは歩きやすい台地状の樹林帯を戻って、ベースキャンプへ。時間的には余裕があったので、左俣をもっと詰めてもよかったかと思っただが、明日の右俣もあるので適当に切り上げられて良かっただろう。

塩沢右俣



塩沢右俣 F2

左俣がスムーズに遡行できたので、ワンランク上という右俣も何とかなるだろう。今回はF10まで詰めるつもりで、昨日と同じく3時30分に起床し、5時40分には出発した。ベースキャンプのある右岸台地をそのまま進んでいくと、次第に崖状になっていくので、ここで沢を渡り左岸斜面を歩く。沢床は、大岩や倒木が多いのでなるべく使わない方が楽である。左岸は崩れやすい状態になってきたので、アイゼンをつけているとようやく周囲が明るくなってきた。

最初に見えたきた5mの氷瀑は、右岸斜面から

流れ落ちるような形状で、右側の窪状から巻いていくことができる。トポではF1ナメ70mとなっている

が、氷瀑の上が段々になっていて氷床になっていた。氷の段々をじっくり登っていくと、ようやく立派なF2が見えた。下段は2条になっていてバーチカルだ。V+。朝一番ということもあって非常に硬い氷でなかなか手ごわい。左側の易しそうなラインを登っていく。上段に移るとやさしくなるのだが、昨日の懸垂下降時にロープを釜に落としてしまったために2本のうちの1本のロープが凍ってしまったのでロープが流れない。早く進みたいが、ロープが出ないので仕方なくゆっくりゆっくり進んで上に抜けた。

すぐ上のF3も30mの大きな滝。大きな滝が連続して時間もかかるが登り応えがある。F2より氷が硬くなくて登りやすいが、V級程度だろうか。続く5mの滝はIV級位であるが、短いのでスクルーを打つまでもなくフリーで登ってしまう。更に6mの易しい滝を過ぎると、開けたところにF5が出てきた。F5は、正面と左上していく2条の氷瀑となっている。本流は左上に曲がっていく方である。F5の更には右にはレンゼが入っており、レンゼの上を見上げれば傾斜の強い氷瀑が連なっているので、こちらも時間があれば楽しめる滝だろう。F5下段は水っぽくて軟らかいIV級の易しい氷だが、上段はモコモコ、スカスカの氷で登りづらい。左から回り込むようにして上に抜けた。

この先はIII級程度の氷瀑が幾つも続いていく。氷瀑と氷瀑の間を歩くのが意外に大変。平



塩沢右俣 F3

らな雪面に見えるのは大抵が釜の上に薄い氷が張っているだけなので、油断して一歩置くと釜を踏み抜いてしまうのだ。面倒だが歩きやすそうな中央は避け、左右に回り込んで進んでいく。氷瀑は全てフリーで登れる難易度だが、20m程度の高さもあるものもあるので気が抜けない。F10までは易しい滝のようなのでうんざりしながら登っていく。トポではカウントしない滝もあるようなので、トポに出ている数よりも多くの氷瀑を登っていかなければならない。時期によっては、雪で埋まってしまって単なる斜面になっている場合もあるようだが、今回は氷が露出していた。



塩沢右俣 F10

F8を抜けたあたりで、うっかり釜に両足がくぶしまで入ってしまい、なんとなく靴下がく湿って足が冷たい。F9と思われる15mの滝2本(2段30m)を過ぎ、沢床をしぼらく進むと

やっとF10が見えた。思ったよりも長くて遠かった。本来のタイムリミットとしていた13時はとくに過ぎてしまったが、これを登らないと後悔するので急いで登ってしまおう。少し焦っていたので、ほとんど休憩をしていなかった。

F10は2段になっており、下段の10mは雪混じりの窪状で問題ない。一段登ったテラスで大休止。これで最後なので、F10は空荷で登ることにした。上段は左右2条に別れているが、傾斜の強い左側は水がビショビショに滴っているので、右側から取り付くがこちらも水が垂れてきている。バーチカルは10m程度だが、スクルーを打つ間にも手袋やアウターが濡れてしまった。下部のモコモコは、氷の上にモナカ氷が乗っていて荷重すると剥がれるのでちょっと嫌らしい。バーチカルを過ぎて傾斜が緩くなってからは、剥がれるところと硬いところが混ざっていて最後まで気が抜けない滝だった。F10の更に上流にも傾斜の緩い氷瀑が見えているが、ここまでする。二人登るのに1時間かかり、14時30分から下降となる。

F10落ち口の左へ一段上がった灌木からダブルロープで懸垂する。次々と登ってきた滝を懸垂下降していくのだが、滝上から見ると立って見えるのだが、降りてみるとクライムダウンできた滝も多かった。ほとんどの滝は懸垂したので非常に時間がかかってしまった。F3を懸垂している途中で日が暮れてしまい、暗闇の中の下降となってしまった。ようやくベースキャンプに戻ったのは19時30分であった。他の記録と比べて遅いが、言い訳としては雪が少なく歩きづらいこと、氷の露出が高く懸垂下降を多用したことか。もっとも、歩くのが遅いというのが一番かもしれないが。

4日目は下山するのみ。下山も渡渉に苦勞して時間がかかった。アプローチがもっとよけ



れば、塩沢も多くの人が入るのと思う。氷結が良くなってがっかりすることが多かった戸台周辺よりも充実していると思う。アプローチさえ良ければ、本流以外にもほとんどの枝沢やルンゼにも氷瀑が掛かっているの、何度も訪れたくなるだろう。

【行程】

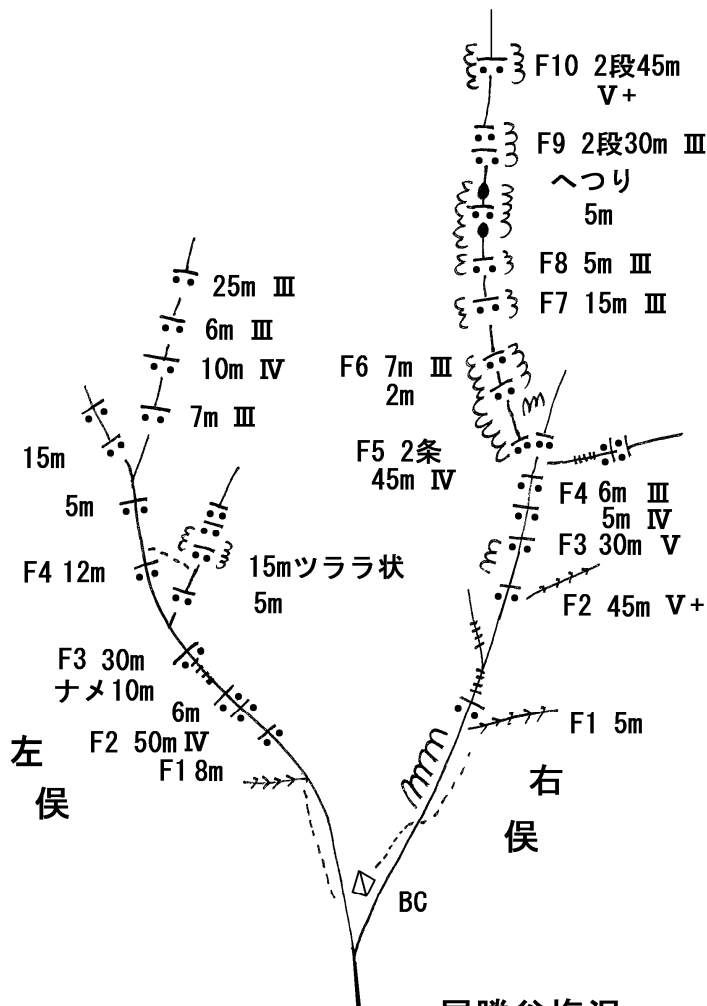
12/25 林道終点(8:40)～塩沢出合(9:30)～二俣 BC(14:20)

12/26 BC(6:00)～左俣～F2(7:30/50)～F2 上(9:05/15)～F4(9:45)～右沢引き返し(10:50)～F7 引き返し(12:30)～F2 下(14:00)～BC(15:00)

12/27 BC(5:40)～右俣～F2(7:05/30)～F2 上(8:35)～F3(9:00)～F3 上(10:00)～F5(10:30)～F5 上(11:30)～F10(13:10/30)～F10 上引き返し(14:20/30)～F10 下(15:00)～F5 下(16:30)～F3 上(17:00)～BC(18:50)

12/28 BC(8:10)～塩沢出合(12:15)～林道終点(12:40)

【地図】 甲斐駒ヶ岳、仙丈ヶ岳



尾勝谷塩沢
2010. 12. 25～28